

平成17年度(秋季入学)・平成18年度(第1次, 第2次)

岐阜大学大学院連合獣医学研究科 博士課程学生募集要項

構成国立大学法人

帯 岩 東 岐	広 京 阜	畜 手 農 阜	産 大 工 大	大 大 大	学 学 学 学
------------------	-------------	------------------	------------------	-------------	------------------

国立大学法人

岐阜大学大学院連合獣医学研究科

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

電話 (058) 293-2987・2988

FAX (058) 293-2992

I. 岐阜大学大学院連合獣医学研究科の概要

1. 設置の趣旨

本研究科は、獣医学科又は応用生物科学科獣医学講座を有する帯広畜産大学、岩手大学、東京農工大学及び岐阜大学の国立大学法人が連携協力して設置する標準修業年限4年の大学院博士課程で、1専攻4連合講座（次頁参照）からなる。

本研究科は、獣医学に関する高度な専門的知識と優れた応用能力を生かして、独創的かつ先駆的な研究を遂行しうる研究者及び社会の多様な方面で活躍できる高級技術者を養成し、獣医学及び関連諸科学の発展と社会の進展に寄与することを目的とする。

また、近年急増しつつある外国人留学生も積極的に受け入れ、獣医学術の国際的ニーズに対応し、国際協力にも貢献するものである。

2. 連合獣医学研究科の特色

本研究科を構成する4大学の教育研究内容には、それぞれの大学の沿革とその地域の立地条件に対応した特色がある。本研究科は、4大学獣医学科又は応用生物科学科獣医学講座の連携協力により、これらの特色を縦横に活用し、一大学では望み得ない多彩な教育研究の展開を図る。また、平成13年度から、国立感染症研究所、平成15年度から、国立医薬品食品衛生研究所及び平成16年度から、動物衛生研究所との連携協力により、専門知識のある研究者による指導と高度な研究設備の整った同所での研究が可能となった。これにより多種多様な学生の志向に適切に応え、より自由な研究分野の選択を可能にするとともに、社会の要請に柔軟に応えうる人材を養成する。

出願及び修学上の特色は次のとおりである。

- (1) 出願者は、連合獣医学研究科の連合講座とその中の教育研究指導分野の1つを選んで出願する。
- (2) 本研究科では、学生1人について主指導教員1人のほかに副指導教員2人を充てる。従って学生1人につき3人の指導教員がつくことになる。
- (3) 学生は、主指導教員が専任として在職する構成法人に配属され研究指導を受けるが、他の構成法人の施設・設備も利用することができる。
- (4) 学生は、研究指導に加え、さらに講義、演習、実験を通じ計30単位以上を履修しなければならない。
- (5) 本研究科は、標準年限を4年とするが、優れた研究業績を上げ、かつ、所定の単位を取得した者にあつては3年又は3年6月で修了を認めることができる。

3. 専攻名と連合講座の概要

専攻	連合講座	概要
獣 医 学	基礎獣医学	<p>哺乳類，鳥類を主な対象とし，それぞれの動物の有する形態及び機能についての高度な教育と研究を行い，併せて，病態，応用及び臨床の各分野に資する基礎的知識を修得させる。さらに各種動物の特性の背景となっている生命現象発現機構の理解を比較生物学的視点から深化させ，獣医学のみならず，バイオサイエンスの研究の発展に寄与する高度な教育と研究を行う。</p>
	病態獣医学	<p>基礎獣医学における動物の正常な形態と機能に関する知見を，応用及び臨床獣医学へつなげる領域である。疾病は，生物，物理及び化学的要因に対する生体応答であり，形態的变化（細胞性反応）と内因性物質の新生あるいは量的変化（体液性反応）として発現する。それら疾病の生体反応の仕組みを解明したり，その発現を阻止するための薬理的あるいは病理学的領域に関する高度な教育と研究を行う。</p>
	応用獣医学	<p>疾病の発生を規定している生体・病原・環境要因の特性とそれらの相互作用について，分子・個体・集団のレベルを合わせて総合的に理解を深めさせる。それを基盤として，各種動物の健康増進と伝染性・多発性疾患の予防による動物の福祉と生産性の向上，人獣共通感染症の対策，安全な食品の確保，環境の保全などに必要な理論とその応用に関する高度な教育と研究を行う。</p>
	臨床獣医学	<p>基礎，病態及び応用獣医学の各分野における知見を基盤とし，経済動物，伴侶動物，実験動物及び水生動物の個体並びに集団における疾病の発生原因，機序及び病態を解明するとともに，疾病のより高度な診断，治療及び予防法を確立する。併せて，産業動物の生産病対策及び胚移植に代表される発生工学的分野の進展とそれに随伴する病的要因の除去に関する高度な教育と研究を行う。</p>

別表 岐阜大学大学院連合獣医学研究科教育研究指導分野一覧

連合講座名	教育研究指導分野	専門試験科目	主指導教員氏名(所属大学)	研究内容	
基礎獣医学	神経解剖学	家畜解剖学	谷口和之(岐阜大学)	脊椎動物の中樞神経系及び感覚器に関する比較解剖学	
	比較形態学	家畜解剖学	神田高俊(東京農工大学)	哺乳動物染色体の分子構造的解析	
	免疫生理学	家畜生理学	阿閉兼郎(岐阜大学)	哺乳類および鳥類の比較神経解剖学	
	生殖生理学	家畜生理学	齊藤篤志(帯広畜産大学)	免疫担当細胞の生理生化学的細胞機能の解析	
	細胞生理学	家畜生理学	田谷一善(東京農工大学)	ホルモン分泌及び作用発現の機構に関する哺乳類の生殖を中心とした比較生理学	
	感覚生理学	家畜生理学	橋爪一善(岐阜大学)	ウシの胎盤に発現する特異物質遺伝子を中心とする獣医学分分野における研究	
	原虫ゲノム機能学	家畜寄生虫学	武蔵義(岐阜大学)	脳・心臓血管機能の解明と血管壁の細胞生理学的研究	
	耐病性遺伝子工学	家畜寄生虫学	鈴木宏志(帯広畜産大学)	発生工学による宿主関連遺伝子の機能解析および発生・生殖工学的技術開発	
	節足動物衛生工学	家畜寄生虫学	長澤秀行(帯広畜産大学)	原虫感染に対する宿主の防御免疫反応の解析	
	原虫病高度診断学	家畜寄生虫学	藤崎幸藏(帯広畜産大学)	人畜の原虫病の媒介に関わる節足動物の分子疫学的研究	
	原虫病予防治療学	家畜寄生虫学	五十嵐郁男(帯広畜産大学)	原虫病に関する免疫学および遺伝子学的診断	
	食品有害微生物学	家畜微生物学	杉本千尋(帯広畜産大学)	原虫ゲノム・蛋白質機能情報に基づいた新たなワクチン・治療法の開発	
病態獣医学	家禽疾病病理学	家畜微生物学	今井邦俊(帯広畜産大学)	食品有害微生物の制御および病原性に関する研究	
	神経薬理理学	家畜薬理理学	西村昌教(帯広畜産大学)	家畜ウイルスの感染・増殖機構と疫学的研究	
	毒性薬理理学	家畜薬理理学	小林晴男(岐阜大学)	運動神経筋伝達の可塑性およびその疾病の解明	
	内因性物質薬理理学	家畜薬理理学	小森成一(岐阜大学)	薬毒物の毒性発現機構の解明	
	運動器病理理学	家畜病理理学	松井高基(帯広畜産大学)	脳腸ペプチドの生理学的あるいは病態生理学的な役割と平滑筋細胞膜のイオンチャンネルの役割	
	細胞病理理学	家畜病理理学	岡田幸助(岐阜大学)	各種動物の運動器病変の解析と病理発生学	
	毒性病理理学	家畜病理理学	三森国敏(東京農工大学)	各種家畜疾病の病理発生学の細胞病理学的解明	
	比較病理理学	家畜病理理学	榎木利昭(岐阜大学)	化学物質により誘発される毒性及び発癌性についての分子病理学的研究	
	応用獣医学	病原微生物学	家畜微生物学	原澤亮(岩手大学)	各種疾病の病理発生と比較病理学
		感染防御生物学	家畜微生物学	本多英一(東京農工大学)	マイコプラズマおよびバクテリオファグの感染制御
		分子感染生物学	家畜微生物学	福士秀八(岐阜大学)	家畜のウイルス感染症の成立機序の解明及び感染防御機構の解明
		応用分子生物学	家畜微生物学	武士甲一(帯広畜産大学)	個性細胞内寄生体の病原性に関する研究
食品安全衛生学		家畜微生物学	品川邦一(岩手大学)	獣医学食品衛生管理学	
環境衛生学		家畜微生物学	津田修治(岩手大学)	食品の病原微生物および細菌毒素の制御	
人獣共通感染症学		家畜微生物学	源宣之(岐阜大学)	環境化学物質が生体に及ぼす影響に関する分子生物学的解析	
分子診断学		家畜微生物学	石黒直隆(岐阜大学)	人獣共通感染症の発症に伴う動物及び野生動物における疫学と診断・予防	
ウイルス感染症学		家畜微生物学	杉山誠(岐阜大学)	分子レベルでの各種疾病現象の解説並びに原因究明と診断	
行動生物学		家畜衛生学	小原嘉明(東京農工大学)	ウイルス性人獣共通感染症の発生機構と制御に関する研究	
				動物一般の行動に関する基礎行動生態学・生理学	

連合講座名	教育研究指導分野	専門試験科目	主指導教員氏名(所属大学)	研 究 内 容
応用獣医学	野生動物医学	野生動物医学	坪田 敏男(岐阜大学)	野生動物の繁殖生理、生殖内分泌および人工繁殖に関する研究
	新興感染症学	家畜微生物学	※渡邊 治雄(岐阜大学)	新たに認識された人獣共通の感染症についての疫学・診断及び予防
	再興感染症学	家畜微生物学	※山田 章雄(岐阜大学)	再び流行している既知の人獣共通感染症についての疫学・診断及び予防
	食品衛生学	獣医公衆衛生学	☆高 鳥 浩介(岐阜大学)	食品微生物及び微生物による健康被害と制御
	食品微生物学	獣医公衆衛生学	☆山 本 茂 貴(岐阜大学)	食品中の有害微生物の診断および制御、食中毒の疫学と予防に関する研究
	家畜衛生学	家畜微生物学	☆山 口 成 夫(岐阜大学)	家畜の生産性阻害を起こす微生物、毒性物質等の性状解明と防除法の開発
	分子遺伝学	家畜微生物学	★関 崎 勉(岐阜大学)	微生物の病原性発現に関与する遺伝子の探索と機能解明
	代謝病学	家畜内科学	内 藤 善 久(岩手大学)	家畜の代謝病における病態解明
	獣医皮膚病学	家畜内科学	岩 崎 利 郎(東京農工大学)	動物の皮膚疾患の発症機序の解明と治療法の開発
	小動物内科学	家畜内科学	北 川 均(岐阜大学)	寄生虫疾患を含む循環器病の病態発生と予防・治療
	獣医寄生虫病学	家畜内科学	鬼 頭 克 也(岐阜大学)	動物の寄生虫疾患および血液病の病態解明ならびに診断・治療・予防法の開発
	大動物外科学	家畜外科学	山 田 明 夫(帯広畜産大学)	産業動物の運動器、消化器及び泌尿器疾患に対する総合診断・治療法の確立
	臨床放射線学	獣医放射線学	佐 藤 基 佳(帯広畜産大学)	産業動物の巡回検診による潜在性疾患のX線画像診断法の解説と予防・治療
外科病態生理学	家畜外科学	原 茂 雄(岩手大学)	外科的侵襲の機能回復に関する病態生理・薬理学的研究	
実験外科学	家畜外科学	山 根 義 久(東京農工大学)	小動物における先天性及び後天性心疾患の外科的治療法の開発	
小動物外科学	家畜外科学	工 藤 忠 明(岐阜大学)	小動物における外科療法と免疫療法の開発	
臨床腫瘍学	家畜外科学	小 守 忍(岩手大学)	皮膚の防御機構および障害時の再生機構の解明と再生医療	
獣医臨床放射線学	獣医放射線学	丸 尾 幸 嗣(岐阜大学)	腫瘍疾患の病態解明と新規治療法の開発	
繁殖障害診断治療学	家畜臨床繁殖学	三 宅 陽 一(帯広畜産大学)	犬、猫における各種疾患に対する病態解明および診断・治療法の質的向上	
臨床生殖内分泌学	獣医臨床繁殖学	加 茂 前 秀 夫(東京農工大学)	家畜、とくに牛、馬の繁殖機能に障害を及ぼす遺伝的、内分泌学的研究	
臨床病理学	獣医臨床病理学	宮 原 和 郎(帯広畜産大学)	動物の生殖機能を司る内分泌機構に関する検討及びその成果の生殖器病臨床面への応用	
獣医病態検査学	家畜内科学	安 田 準(岩手大学)	家畜の各種疾患における画像診断を中心とした臨床病理学的研究	
臨床免疫学	家畜内科学	松 田 浩 珍(東京農工大学)	病態解明のための獣医臨床検査診断学的研究	
小動物疾病学	家畜内科学	深 田 恒 夫(岐阜大学)	アレルギー疾患の免疫病態解析 動物における疾病の発生機序および防御機構の解明	

※国立感染症研究所との連携を示す。

☆国立医薬品食品衛生研究所との連携を示す。

★独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構動物衛生研究所との連携を示す。

Ⅱ. 入学者選抜要項

本研究科では、獣医学に関する高度な専門知識と優れた応用能力を涵養し、国際的、独創的かつ先駆的な研究を遂行し得る研究者と多様な分野で活躍できる高級技術者を養成することを目標としている。

【入学を期待する人物像】

前項の目標を達成するため、本研究科では以下のような人を求めている。

- ・専攻する獣医学分野の基礎学力を有する者
- ・国際語である英語の学力を有する者
- ・課題探求心が旺盛な者
- ・幅広い視野と旺盛な学習意欲を有する者
- ・基本的な社会性及び論理性が備わっている者

1. 募集人員

専攻	募集人員
獣医学	15名

上記の募集人員の他に外国人留学生若干名を受け入れる。

2. 出願資格

- (1) 大学における修業年限6年の獣医学、医学又は歯学を履修する課程を卒業した者及び平成18年3月（秋季入学者にあつては平成17年9月）卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者及び平成18年3月（秋季入学者にあつては平成17年9月）修了見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣が指定した者（昭和30年文部省告示第39号に該当する者）
- (5) 大学における獣医学、医学又は歯学を履修する課程に4年以上在学し、又は外国において学校教育における16年の課程（獣医学、医学又は歯学を履修する課程を含むものに限る）を修了し、所定の単位を特に優れた成績をもって修得したものと本研究科が認めた者
- (6) 個別の入学資格審査により、大学における修業年限6年の獣医学、医学又は歯学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると本研究科が認めた者で、24歳に達したもの

対象となる者： 短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者や
外国大学日本分校、外国人学校の卒業者等

(7) その他(1)に掲げる者と同等以上の学力があると本研究科が認めた者

(注) 1. 上記(4)に該当する者は、次のとおりである。

- ① 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し、これらの学部を卒業した者
- ② 防衛庁設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者
- ③ 修士課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者
- ④ 前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた者で、修業年限6年の獣医学、大学の医学、歯学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると本研究科が認めた者
- ⑤ 大学（獣医学、医学又は歯学を履修する課程を除く）を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、大学の修業年限6年の獣医学、医学、歯学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると本研究科が認めた者

2. (7)に該当する者は、次のとおりである。

- 一、従前の大学における修業年限4年の獣医学を履修する課程を卒業した者で、卒業後、獣医学に関連する研究その他の業務に入学時（その年度の4月1日（秋季入学者にあつては10月1日）とする）において2年以上従事していること。
- 二、(1) その他大学における修業年限6年の獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると本研究科が認めた者
- (2) 著書、学術論文、学術報告等により修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有すると本研究科が認めた者

3. (注) 2. 出願資格の(4)－④、(4)－⑤、(5)及び(7)に該当する場合は、出願に先立ち、本要項の10頁の10. による出願資格の認定を受けること。

また、2. 出願資格の(6)に該当する場合も本要項の11頁の11. による入学資格の認定を受けること。

3. 出願期間

出 願 期 間	
第1次・秋季入学	平成17年7月19日（火）～ 7月29日（金）まで（必着）
第 2 次	平成18年1月4日（水）～ 1月13日（金）まで（必着）

出願書類（秋季入学用書類は黄色）は、持参又は郵送とし、持参の場合の受付は土、日、休日を除き午前9時から午後5時までとする。

4. 出願手続

出願にあたっては次の出願書類（秋季入学用書類は黄色）及び検定料を添えて手続をし、受験票の交付を受けること。郵送による出願の場合は、本研究科所定の封筒を使用し、必ず「書留速達」とすること。

(1) 出願書類（秋季入学用書類は黄色）及び検定料

- ① 入学願書 本研究科所定の用紙（別紙連獣研様式第1号）
出願者は別表を参照して連合講座と教育研究指導分野の1つを選んで出願すること。 1通
- ② 履歴書 本研究科所定の用紙（別紙連獣研様式第2号） 1通
- ③ 修業年限6年の学科（学部）卒業（見込）証明書又は修士課程修了（見込）証明書 1通
- ④ 成績証明書 ア．出身大学の学部のもの 1通
イ．出身大学院の研究科のもの 1通
ただし、修業年限6年の学科（学部）卒業者については、アのみとする。
- ⑤ 健康診断書 本研究科所定の用紙（別紙連獣研様式第3号）
出願前3か月以内に作成したもの。 1通
- ⑥ 写真 出願前3か月以内に撮影したものを入学願書及び受験票に貼付する。上半身、脱帽、正面向き、縦6cm×横4.5cmのもの。 2葉
- ⑦ 卒業論文又は修士論文等の概要
A4判の用紙を使用して和文の場合は2,000字程度、英文の場合は1,200語程度で記載し、本研究科所定の表紙（別紙連獣研様式第4号）をつける。ただし、卒業論文を課されていない者については、職場等におけるこれまでの研究経過報告書を提出すること。なお、これらのいずれも提出することが不可能な者は、本研究科に出願するに至った経緯を1,000字以内にまとめて提出する。 5部（正副（コピー可）1部4部）
- ⑧ 研究計画書 A4判の用紙を使用して和文の場合は1,000字程度、英文の場合は600語程度で入学後に希望する研究内容を具体的に記載し、本研究科所定の表紙（別紙連獣研様式第5号）をつける。 5通（正副（コピー可）1部4部）
- ⑨ 受験承諾書 本研究科所定の用紙（別紙連獣研様式第6号）
官公庁又は会社等に在職している者は、所属長又は代表者の受験承諾書を提出すること。 1通
- ⑩ 外国人登録済証明書等
外国人出願者は、在留資格を記載した外国人登録済証明書又は入国査証の写しを提出すること。 1通
- ⑪ 返信用封筒 住所、あて名、郵便番号を明記し、770円切手をはった定形型封筒（縦20.5cm×横9.0cm）

⑫ 検 定 料 30,000円

別紙所定用紙で銀行振込し、その納入書を提出すること。

※日本国政府から奨学金を支給されている外国人留学生は免除されるので、国費外国人留学生証明書を提出すること。

(2) 提 出 先 岐阜大学大学院連合獣医学研究科 連合獣医学係

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

電話 (058) 293-2987・2988

FAX (058) 293-2992

5. 岐阜大学大学院連合獣医学研究科入学試験選抜概要（過去5年間）

獣医学専攻

年度	事項	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
平成17年度		15	30 (10)	30 (10)	27 (7)	27 (7)
平成16年度(秋季)		若干人	5 (2)	5 (2)	3 (1)	3 (1)
平成16年度		14	27 (6)	26 (6)	23 (5)	23 (5)
平成15年度(秋季)		若干人	11 (7)	11 (7)	8 (5)	8 (5)
平成15年度		13	31 (9)	30 (9)	26 (8)	25 (8)
平成14年度		13	29 (8)	27 (7)	23 (6)	22 (6)
平成13年度		12	38 (12)	37 (12)	28 (10)	28 (10)

* () 書きは、外国人留学生で内数

6. 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、成績証明書及び健康診断の結果を総合して行う。

(1) 学力検査

① 筆記試験

ア. 外国語 : 英語

イ. 専門科目 : 出願した教育研究指導分野の専門試験科目(別表参照)

② 口頭試問

卒業論文又は修士論文等及び研究計画書の内容を中心に行う。口頭試問の時間は一人につき約30分程度とする。最初の10分は受験生の卒業論文又は修士論文等の説明(液晶プロジェクター(OHP対応型・パソコン付(持参可))・スライド使用可・試験当日申し出ること)に当て、その後質疑に入る。

(2) 健康診断

健康診断は、出願書類として提出された健康診断書により審査する。

7. 試験の日時及び場所

日 時		試験科目		試験時間	場 所
第 1 次 秋季入学	平成17年 9月15日(木)	筆記	外国語	9:00~10:30	岐阜大学大学院 連合獣医学研究科
		試験	専門科目	11:00~12:30	
		口 頭 試 問		13:30~	

日 時		試験科目		試験時間	場 所
第 2 次	平成18年 2月16日(木)	筆記	外国語	9:00~10:30	岐阜大学大学院 連合獣医学研究科
		試験	専門科目	11:00~12:30	
		口 頭 試 問		13:30~	

8. 合格発表

第 1 次 秋季入学	平成17年 9月20日(火)	正午頃	連合獣医学研究科, 帯広畜産大学畜産学部, 岩手大学及び東京農工大学農学部に掲示する とともに, 合格者には「合格通知書」を送付 する。
第 2 次	平成18年 3月2日(木)	正午頃	

9. 入学手続

(1) 入学手続期間

秋季入学合格者：平成17年9月20日(火)から9月26日(月)までとする。

第1次・第2次合格者：平成18年3月14日(火)から3月20日(月)までとする。

受付時間は、土、日、祭日を除き9時から17時まで。

郵送の場合は「書留速達」とし、3月20日(月)(秋季入学合格者にあつては、9月26日(月))(17時)までに必着のこと。

(2) 入学に要する経費

① 入学料 282,000円

② 授業料 267,900円(年額535,800円)

在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料を適用するスライド制が適用されます。

なお、日本国政府から給与が支給されている国費外国人留学生は入学料、授業料とも免除されます。

(3) 提出書類等

① 誓 約 書(本研究科所定の用紙)

② 個 人 票()

③ 学籍簿記載用紙()

④ 住 所 等 届()

⑤ 入 学 承 諾 書(該当者のみ)

⑥ 返信用封筒（書類持参者は除く）

⑦ 学生証用写真 2 枚（2.4×1.9cm）

平成18年3月上旬（秋季入学合格者にあつては平成17年9月下旬）に①～

⑤の書類を本人あて送付する。

10. 出願資格の認定について

(1) 本要項2の注の3に基づく出願資格の認定は、次の提出書類及び面接試験により行う。ただし、提出書類の審査によって出願資格が認定された場合は、面接試験は行わない。

(2) 提出書類（秋季入学用書類は黄色）

① 入学試験出願資格認定申請書

本研究科所定の用紙（別紙連獣研様式第7号） 1通

② 成績証明書

本研究科所定の用紙

ア. 出身大学の学部の成績証明書

（別紙連獣研様式第8号の1） 1通

イ. 出身大学院の研究科の成績証明書

（別紙連獣研様式第8号の2） 1通

③ 履歴書

本研究科所定の用紙（別紙連獣研様式第2号） 1通

④ 研究歴証明書

本研究科所定の用紙（別紙連獣研様式第9号） 1通

⑤ 研究業績書

A4判の用紙を使用して和文の場合は1,000字程度、英文の場合は600語程度でこれまでの研究業績内容の要約を記載する。

なお、これを提出することが不可能な者は、本研究科に出願するに至った経緯を1,000字以内にまとめて提出すること。本研究科所定の表紙（別紙連獣研様式第10号）をつける。

5部（正副（コピー可）1部4部）

⑥ 研究成果資料

研究業績書の内容を裏付ける研究論文及びその他の研究業績を示す資料があれば添付すること。 1部

(3) 提出期間

提出期間	
第1次・秋季入学	平成17年7月4日（月）～7月13日（水）まで（必着）
第2次	平成17年11月28日（月）～12月7日（水）まで（必着）

- (4) 提出先
 岐阜大学大学院連合獣医学研究科 連合獣医学係
 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
 電話 (058) 293-2987・2988
 F A X (058) 293-2992

(5) 面接試験の日時は、別途通知する。

(6) 審査結果の通知

第1次・秋季入学	平成17年7月22日（金）頃本人あて通知する。
第2次	平成17年12月16日（金）頃本人あて通知する。

11. 入学資格の認定について

5頁「2. 出願資格(6)」に該当する者の認定は、次の提出書類及びこれまでの研究内容等を中心とした口頭試問に基づいて認定する。

提出書類等

- ① 入学資格審査申請書（本研究科所定の用紙） 1通
 ② 上記①の他に、10頁の(2)の提出書類②～⑥に掲げる書類
 ③ 提出期間等については、10～11頁の(3)～(6)の記載に準ずる。

12. 注意事項

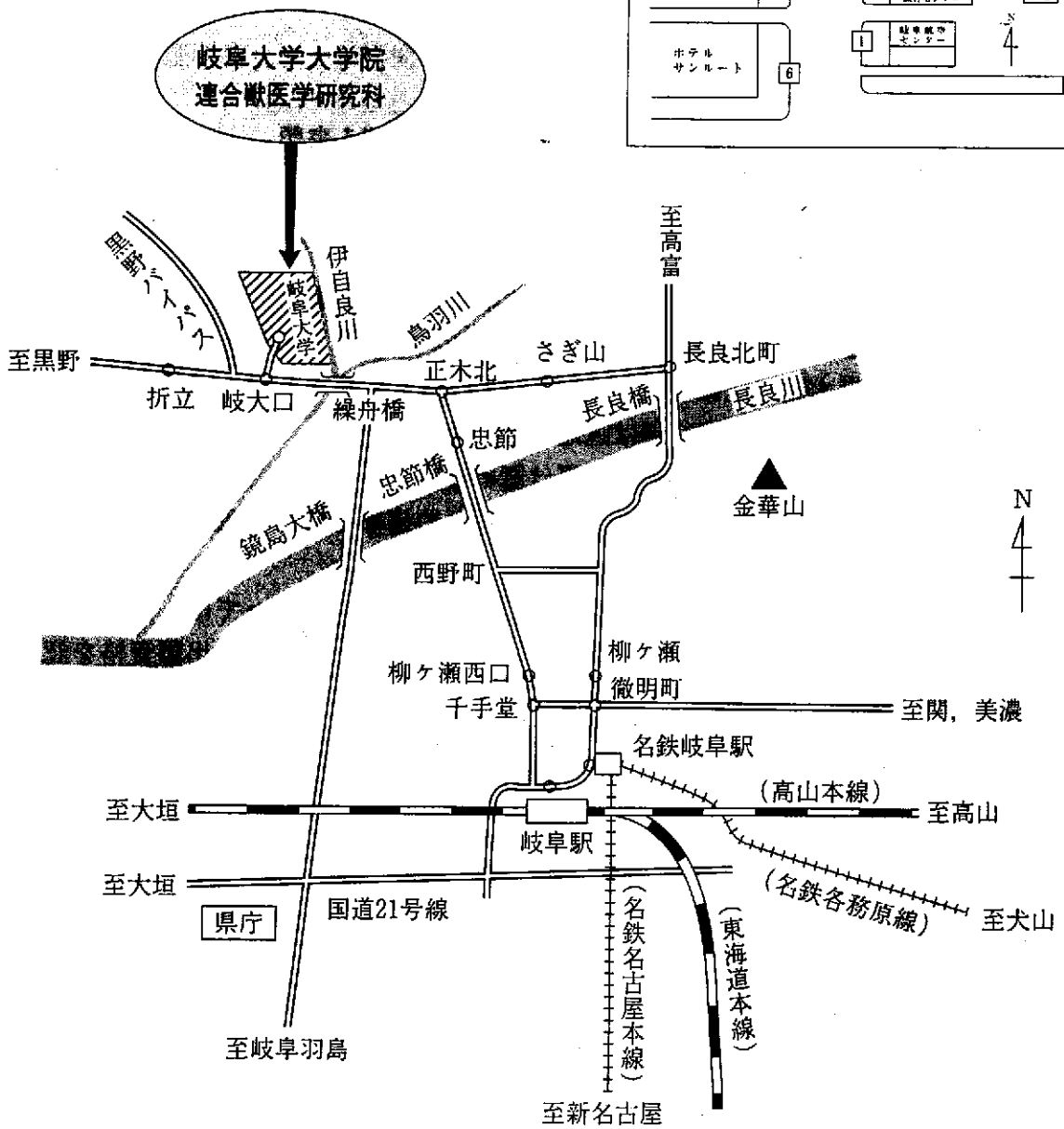
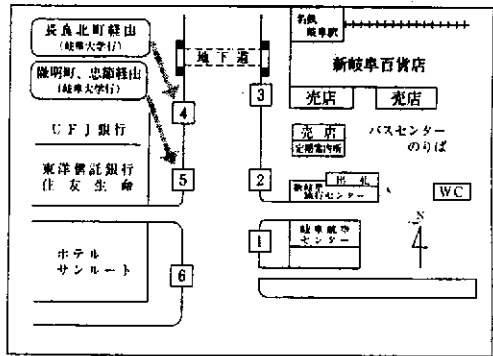
- (1) 出願にあたっては、事前に入学を希望する教育研究指導分野の主旨導教員（予定者）と相談することが望ましい。
- (2) 出願書類は日本語で記載することを原則とする。
- (3) 受理した出願書類及び検定料は返還しない。
- (4) 出願書類提出後は、記載事項の変更は認めない。
- (5) 秋季入学を出願しようとする者は、必ず黄色の出願書類を受理すること。（出願申請後の変更は認めない）
- (6) 出願資格認定審査又は、入学資格審査を必要とする者にとっては、資格認定のための提出書類に加え、出願書類も同時に提出すること。ただし、出願資格を認定するまでは、出願書類は一時預かることとし、出願資格の認定後に書類を受理する。
- (7) 出願に関し不明の点がある場合は、本学大学院連合獣医学研究科 連合獣医学係に照会すること。なお、郵便で照会する場合は、住所、あて名、郵便番号を明記し、郵便切手を貼った返信用封筒を必ず同封すること。
- (8) 入学手続きは、指定された期間内に完了しない場合は、入学を認めない。

平成17年6月

岐阜大学大学院連合獣医学研究科
 連合獣医学係
 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
 電話 (058) 293-2987・2988
 F A X (058) 293-2992

試験場名	試験場までの交通網
岐阜大学大学院 連合獣医学研究科	JR岐阜駅前又は名鉄岐阜駅バスのりば5番から岐阜バス「岐阜大学」行き（徹明町・忠節経由）。「岐阜大学」行きで約30分、4番から（長良北町経由）で約35分「岐阜大学」下車（JR岐阜駅から約7km）

名鉄岐阜駅周辺の施設案内



岐阜大学大学院連合獣医学研究科案内図（岐阜大学構内）

